

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-530	12-330	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
Management of alcoholic hepatitis:Current concepts. アルコール性肝炎のマネジメント：現在の考え方		
執筆者		
Karsan HA, Parekh S.		
掲載誌		
World J Hepatol. 2012 Dec 27;4(12):335-41. doi:		
キーワード		
要 旨		
<p>アルコール性肝炎は、常習的アルコール乱用者の中に認められる急性肝障害であり、病的状態と死亡率で破滅的な型を示す。それは、遺伝子および環境因子が役割を果たし、大量のアルコールを摂取することによって誘発される多臓器疾患である。予後診断の基準が重症度を予測するために開発され、この基準は内科治療を開始する指標として用いられる。飲酒の継続が疾患進行の最も重要な危険因子であるため、治療の主体は断酒と支持療法である。支持療法の基本は積極的栄養補給であり、急性アルコール性肝炎は広く研究されてきたにもかかわらず、ほとんど特殊な内科治療は成功していなかった。副腎皮質ステロイドは、現在も利用可能な最も有効な内科治療であり、選択されたアルコール性肝炎の患者群で短期間の生存率を改善する。しかしながら、薬物治療の長期的な転帰はまだ完全に明らかになっておらず、更なる臨床調査が必要とされている。急性アルコール性肝炎に対する肝移植が有望な結果を証明しているが、大部分の移植センターが長期間の断酒期間を移植を考慮する前に必要としている。この治療法についてはまだ論争中であり、普遍的に有用が主張されているわけではない。まだ研究的段階であるが、体外肝補助装置が肝再生のための時間を与えるための肝臓の機能の補助として開発された。これらは不幸で恐ろしいこの疾患のために、将来の治療的なオプションとなる可能性がある。</p>		